



プラティープ・ジャパン浜岡代表

やまもと せつこ
山本節子さん



PROFILE

やまもと せつこ(佐倉三区・73)
教育里親の会「プラティープ・ジャパン浜岡」代表。今まで20人余りに支援の手を差し伸べた

教育里親として長年支援

貧困や障がい、家庭内の問題により学ぶ機会が十分でない子どもたちを支援する、タイのドウアン・プラティープ財団へ教育奨学金を提供している市民団体「プラティープ・ジャパン浜岡」に、タイ王室のウボンラット王女から34年間の活動に対する感謝状が贈られた。

団体は、1984年4月に山本さんと夫の信治さんが立ち上げた。「新聞報道で財団の活動を知った友人から誘われてね。夫と2人で里親として活動を支援したことがきっかけ」と山本さんは話す。

同団体のメンバーが支援する「教育里親」制度は、財団の基準を満たす幼稚園から大学生までの子どもの中から財団が里子を選考し、その里子に対し奨学金を提供するというもの。金額は、幼稚園児から小学生が1万2千円、中学生が2万5千円、高校生が3万円、大学生が3万5千円とさまざまで選択可能。奨学金は教材の購入や学費などに充てられる。里親には里子の成績表が届き、タイを訪問して交

流する機会もあるという。

「タイは急激な近代化により貧富の差が生じています。スラムの子の中には、勉強したくても貧しくてできない子がいます。貧困によって将来の可能性まで摘み取られている」と現状を話す山本さん。自身の受け持った里子は、日系の大手企業で総務部長を務めるほどに自立した子どももいるという。

関心を持ってほしい

山本さんは今までの活動を振り返り「貧しい子どもたちのために始めたことなんだけど、夢のために頑張っている姿を見ているともっと応援してあげたくなるの。第二の子どもかな、成長を見ることができるともううれしい。支援した子どもとは、今でも連絡を取り合っています。この活動をしたことで世界が広がりました。子どものいる家庭なら、タイの子どもから刺激を受けたり、国際的な視野を育んだりとすることができると思

います。ぜひ大勢の人に関心を持ってもらいたい」と話す。【会員募集中。山本さん☎

0537-864525】

